

## リスキリング(Reskilling)革命による産業界の活性化

荒野 喆也

戦後我が国は、高度成長期を経て、ジャパン・アズ・ナンバーワンといわれた。しかし、東西冷戦終了以降、「失われた三十年」低落状態が続いている。この原因には、いろいろ指摘されてはいるが、人口減少という構造的なものもある。しかし、同様な人口減少に見舞われつつも、それなりに、頑張っている国も多い。産業活動に携わる活力を、量的ではなくて質的に向上させるために、我が国でも、基本となる各種の人材教育を実施してきたが、まだまだ結果は不十分である。例えば、SOIオンザジョブ研修とかスキルアップ研修とか、伝統的に実施してきたいるが、現状は厳しい。

この現状を考えてみると、やはり、現状の研修のやり方が、産業界の社会的・技術的変革に沿って変化してきていないことがある。産業構造の大きな流れは、産業革命以来の蒸気機関に始まり、内燃機関化・電気化・電子化と進み、現在は、DX化・GX化の時代である。これらの時代変化には、とても従来の企業内研修とか、従来のスキルを磨いていくやり方では、世の中の流れについていけないことになる。

そこで、最近方法論としてのリスキリングの登場である。

このリスキリングは、二〇一五年ごろ、ドイツでインダストリー四・〇のコンセプトから始まった。そして、二〇二〇年世界経済フォーラムで「リスキリング革命」構想が提唱された。そして、二〇二〇年一月の年次総会ダボス会議で二〇三〇年までに、世界の一〇億人の人々のために、より新しい教育・新しいスキル、より良い仕事の提供」を目的にした「リスキリング革命」構想の開始を宣言した。この宣言以降、日本でもリスキリングへの注目度は高くなってきている。

兎に角DX・GXの時代に、従来のIT技術や企業の活動範囲内の閉じた研修をいくら深掘しても、大きな発展は望めない。そのためには、従来の枠を超えた新しい分野への転換が不可欠である。リスキリング革命は、業界が新しく飛躍するための「学びなおし」で、政府・企業・社員いづれにとっても新しい投資と考えるべきである。